

追善

月の別

全

追善
月の別
貫里
文化四年

807-6

俳諧資料カード

年代 文化四年

編者
筆者 貫里

書名 月の別

備考

807
|
6

ス (下垣内蔵)

己酉

於洛陽客舍南北仙篆之



文化四丁卯九月

土佐赤岡

貫里編

張馬の記

柏亭れと二冊仕とありしを正の
御流紙好と積む語よ口とをくふ又流紙
再和師書く少れ之世を極く今の古梁
宗近の撰集も名とくく免すさぬハ
御よりくきぬ士とくく一とさしハ
春而下よりく推とぬく信とく
口とさ志と通せ一と書きれさより
御偏振の流紙一と氣力海く書一

福のゆくもどき 灯はほのぼのしく 二日二日
 花押もぬきあはれ 秋の風はさびしき
 秋風の勢はゆるぎなき 思はれど
 ちかとの風雅れまういづこか 秋
 さしやゆめはれいづか 秋
 秋の風はゆるぎなき 思はれど

秋化序

欠く

月夜果

又の別名は秋は

秋の風はゆるぎなき 思はれど

又の別名は秋は

秋の風はゆるぎなき 思はれど

秋の風はゆるぎなき 思はれど

秋の風はゆるぎなき 思はれど

秋の風はゆるぎなき 思はれど

秋の風はゆるぎなき 思はれど

名前生男

登りぬる雲の解の雲のかきし
 亡跡れ定よ音阿の林の凡 静山
 蓮の雲と衣よ浄ちへ飛はまし 知抄
 時の月より移り影や 秋の夜 沙英
 へく行美やあきうや名れ月 水因
 亡人の行よおのり 森見月 其川
 多うれ果あまうらなる向水 文家

塚よあきく向よ雲れあうたり 竹字
 月よせし諸る別や西の光 萬友
 香ぬくもくくのや春の雲送 吾
 冥伽桶と折をへ行く 林格板 女羅
 雲とくくさひうけなや暮る流 吐糸
 飛よ序を人きさうりや蓮れ雲 厚山
 女中へあよおしうちあ板 其友
 信よなきおしうちあ板 其友
 野舟船のわかれかきぬ流の燈 牛松

名録四季混雜

晴し心波岸多りや嫁姑四百原
ゆり向はし方れ園のまぬり鈴、柳圃
智ハ妒も余波の霜おり、産後
雪解く梅の世界や序在ふ、古琴
永ふりや鐘も尾のま奥の院、三田
お味し草焼家や麻のあひ、園字
るる掃ゆせりせりしうふ、瀬江

川秋のまゝ一しる熱掃ゆ若作如遊
まゝ有し彌重とゆあや井の音下田之園
一河公船く通。やあ一くま、二好
本光れまはるし一さよるの鳥、三巴
お代乃屋を揺るや曲窓のよ、挑字
指の火し煮代ゆあはれおき登
お梅や正月はははは梅く、挑原
およまゝあやね乃夕し、秀枝
龍上訓もいづる宿乃依り、踏泉

牛飼ふふり折く多柳く多杜流

唐くとおとぬうう雷れ紅其地

夕立や高屋川れ行濁り水川

月の夕一段ききき所在ふ止鬼黙

世ありのりあききり秋口和萬化

編福の屋あくあや奥の院雲河

段のあしれようり梅字香鳥

まらむやあきききと比丘尼所里遊

稲妻のいよとさきききき可青

善又入乃る折足らや国れ内文犯

熊竹の尾まねるや鬼刻月戸

横くさあ地あの日る芦の角一步

水かーうさあ森にきく月鳥孝

むけーやとんさくもるの月去留

らとさやあきききき家一ツ佳夕

街うとやあむれ海の松の音左竹

雪とさあききききや音れあ凡

水けいあききききき葉の音るま在赤壁

越くまゝくりおえん之をのまのま、松柳
 舞の喜ま何りおえん守の朝の霜、高知 辰六
 湯をいふまゝくりおえん早秋舟、宋平
 新じや淀まゝ舞て流あも、心三坊
 水塔磯や牛れ朝おは秋の鉦、ま雨
 多時や端の海り糸れ臺、そね

諸回之通

麦秋や舞すおれ舞おれま、五農 文林

願粒の朝のおゝ、越後 雛の家、侍坊
 白梅よまゝくりおえん思おれ、おね 定二
 それまゝくりおえんの海の一の家、長門 西砂坊
 一畦もまゝくりおえん門甲、備前 城ふ、物不房
 金にけり乃常懼れまゝや山梅、ねる
 隣も鼻おりむや秋のまゝ、柳海
 確れ舞まゝくりおえん、百枝 蓼花
 刈草のまゝくりおえんや秋の蟹、山
 本免り疲まゝくりおえん、伊予 吾を

宿うりく一おにん木の暖帳、鳥律

同吉人の部

字海い中ふ音と雪の所 均堂記

鴨より水張りや志々夕日影 彫庵

七夕や西より織の糸の錦織 壽院

○

早乙女の笠も穂よわく踊哉 備あり 伊代高

登起れ遠くよりきき須磨响石 桂庵

世に初ふと流せしうらやらの路 山田 均松坊

鐘はくち寺はまの夕ノト 山田 藤原坊

吹浦り教や小まのさ九ら 遊不庵

水もこれ水へ海にさるるやあふ 廣岐 三幸坊

穂よちや糸帯をゆ 三頁 百屋坊

おハ約きの布きや 三信 藤原坊

轆うハ皆あおき 松陽

白鳥やうへへまてまてくろ、沙羅
山外のたうちまてや木下屋、草凡
より月よ作くやうまふまて、子ね
江院くけくあぬ氣を成ぬ替衣、汐由
川まきやあまー入白の小塩出、赤品化
極赤ハ上地よまふ公を居仰、白鷺橋

Faint bleed-through text from the reverse side of the page.

二貫のぬきまてぬ。
これ便に年、ゆりまて

まてまてに
まてまて
秋のまて
雨まて庵

まてまてまてまて

